

説明資料— 1

平成22年度 羊蹄山避難小屋整備基本計画検討会

(第3回)

説明資料

前回検討会結果の概要

平成23年2月25日
北海道地方環境事務所
日本工営株式会社

【第2回検討会までの振り返り】

(1) 避難小屋の規模等について

【主な意見】

- ・羊蹄山は、登りで4～5時間かかり簡単に下山できない山。技術指針の66㎡を最低でもスタートラインとして考えてほしい。
- ・過去の地域での検討結果では、45～50名程度の宿泊収容できる規模が望ましいと検討されている。
- ・悪天候時等における玄関における避難者の集中(20名程度)に配慮した間取りを考えてほしい。
- ・体力の回復や快適利用を促せるような規模としてほしい。
- ・ザックの置場や使い勝手などのスペースにも配慮してほしい。

(2) 避難小屋の整備箇所について

【主な意見】

- ・既存小屋の撤去、工事における既存小屋の活用、緊急時のヘリポート利用、植生の影響等を考慮すれば、現小屋隣接地(b案)が最適。
- ・保安林観点から判断すれば、既存小屋撤去後、同位置に小屋を建築(a案)が望ましい。

(3) 山岳トイレの整備について

【主な意見】

- ・山岳トイレの処理方法は、土壌処理方式が妥当。
- ・緊急時も含め、清掃用にも水が必要であることから、雨水を確保する装置が必要。
- ・携帯トイレは、利用する登山者も増えていることから、サブ機能として普及が望ましい。
- ・携帯トイレは、メニュー化すれば少量でも処理しなければならず、地元負担となることから、導入しない方がよい。
- ・トイレ協力金は導入すべき。

(4) 維持管理体制について

【主な意見】

- ・維持管理体制の役割については、環境省案で概ね問題ないと判断する。
- ・担当の役割だけでなく、関係機関が協力しあいながら、維持管理を行ってほしい。
- ・野営指定地については北海道庁で検討する。